

令和6年度 栃木市教育研究所研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	学びに向かう学級づくり		部 会
2 研究所員 事務所員 ◆：代表者	研究所員 ・稲村 政憲(栃木東中) ・堀江 英里(東陽中)	・永井 良和(大平中央小) ◆海老原 亜樹(栃木第五小)	事務所員 ・佐藤 奈央子 ・高岩 香純



3 研究テーマ

安心感のある学級づくりを目指した取組 ～学級目標を活用した学級経営～

4 研究の取組

(1) 研究内容

昨年度に引き続き、安心感のある学級づくりをすることが学びに向かう学級をつくることに繋がると考え、テーマを「安心感のある学級づくりを目指した取組～学級目標を活用した学級経営～」にした。「学びにおける安心感」を児童生徒が得るためには、学級での所属感や自己有用感がもてること、心理的安全性が高いこと、学級が受容的な環境であることなどが必要ではないかと考えた。また、そのために「自己決定の場」を積み上げていくことが有効ではないかと考えた。そこで、児童生徒たちにとって一番最初の自己決定の場である学級目標の設定を利用して、安心感のある学級づくりを目指し、各自が考えた取組を実践し、取組の共有、授業研究を行っていく。

(2) 研究計画

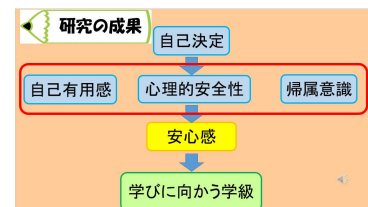
月 日	研修内容	月 日	研修内容
5月13日	R5年度の研究内容の確認、R6年度の計画作成	11月22日	研究のまとめ、発表資料作成
7月4日	研究内容の協議	1月24日	栃木市教育研究発表会 (オンデマンド配信)
10月8日	研究のまとめ(成果・課題の確認)	2月6日	協議・まとめ
		2月21日	3年次報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・「学級目標を作成する」という内容に焦点を当てたことで、校種や学年を問わず誰もが取り組みやすい内容になった。
- ・学級目標の作成→行事や学期ごとの振り返り→次年度に生かす、というサイクルを見つけることができた。

研究を通して見えてきた安心感と学級づくりの関連図 →



【課題】

- ・学校の行事や実態によっては、サイクル通りに行うことが難しい。
- ・振り返る時間を確保することが難しい。

6 さらに研究していきたいこと

- 児童生徒の安心感につながる教師の言葉掛け
- 係、当番活動を児童生徒の主体性や帰属意識、自己肯定感につなげるための工夫
- やるべきことが決まっていることと安心感との関連についての考察
- 型にこだわるだけでなく、そこから発展させる方法
- 本研究で見えてきた2年間サイクルでの研究の推進